

43

<逆走時の追い越し>

無死走者一・二塁。左中間にフライが上がったので二塁走者は二・三塁間で止まって状況を見ていたが、一塁走者はスタートを切って二塁走者の手前まで来ていた。フライが捕球されたので一塁走者は慌てて逆走したが、二塁ベースに戻ろうとした二塁走者に追い越されてしまった。この場合 追い越した二塁走者がアウトになる。

44

<四球時のボールデット>

カウント3ボールからの投球が暴投となりボールデッドゾーンに入った。この場合 四球+ワンベースで二塁までの安全進塁権が与えられる。

45

<牽制悪送球とボールデット>

投手の一塁への牽制球が暴投となりボールデッドゾーンに入ったとき 投手板を外していた場合は2個、外していなかった場合は1個の安全進塁権が走者に与えられる。

46

<野手悪送球時の安全進塁権>

セカンドゴロを二塁手が一塁に悪送球してボールデッドゾーンに入った。この時、打者走者には1個の安全進塁が与えられる。

47

<ワインドアップポジションからの牽制球>

投手は、ワインドアップポジションからプレートを外さずに二塁に自由な足(軸足でない方の足)を直接踏み出して牽制球を投げてよい。

48

<ワインドアップポジションからのプレートの外し方>

投手は、ワインドアップポジションからプレートを外す時は、自由な足(軸足でない方の足)から外してもよい。

49

<同一塁上の2走者と塁の占有権>

1死走者二・三塁。スクイズを試みたが外されて三塁走者は三・本間に挟まれた。その間に二塁走者は三塁ベースに達し、挟まれた三塁走者も上手に逃げ三塁ベースに戻った。この場合 先に三塁ベースに来ていた二塁走者に占有権があるので 三塁走者はタッチされればアウトになる。

50

<スリーバント>

2ストライクからバントを試みたがファウルボールとなった場合 打者はアウトとなる。

51

<スリーバント失敗の定義>

無死走者二塁。2ストライクからバントを試みたが空振り三振となり、捕手がこのボールを落球したが、スリーバント失敗で打者はアウトなので振り逃げはできない。

52

<インフィールドフライが宣告される時>

無死走者一塁で打球は平凡なショートへのフライとなり、インフィールドフライが宣告された。

53

<故意落球の定義>

無死走者一・二塁で送りバントを試みたが投手への小飛球となったため、走者はスタートを切れなかった。投手はわざと直接捕球せずにショートバウンドで捕球し、三塁へ送球、次いで二塁へ転送されダブルプレーとなった。しかしこの行為は故意落球なので 打者アウトで1死走者一・二塁となる。

54

<故意落球の定義>

無死走者一 二塁で送りバントを試みたが投手への小飛球となったため、走者はスタートを切れなかった。投手はわざと捕球せずにグラブに当てて落とし、三塁へ送球、次いで二塁へ転送されダブルプレーとなった。しかしこの行為は故意落球なので 打者アウトで1死走者一・二塁となる。

55

<インフィールドフライ>

インフィールドフライが宣告された打球がベースから離れている走者に当たった場合 打者と走者の両方がアウトになる。

56

<インフィールドフライ>

インフィールドフライが宣告された打球がベース上にいる走者に当たった場合、打者だけがアウトになり、走者はアウトにならない。

57

<トンネルした打球が走者に当たった>

無死走者一・三塁。セカンドゴロを前進守備の二塁手が捕ろうとしたところトンネルした。この打球が一塁走者に当たった場合、故意か否かに関らず 一塁走者はアウトになる。

58

<打撃妨害>

1死三塁。打者のバットにミットが触れたが打球は外野まで飛び犠牲フライとなった。この場合 必然的に打撃妨害は無効となり1点入り2死走者なしとなる。

59

<打撃妨害>

1死三塁。打者のバットにミットが触れたが打球はレフト前ヒットになり、三塁走者はホームインした。しかしこれは打撃妨害なのでホームインした走者は三塁に戻され、1死一・三塁となる。

60

<打撃妨害>

1死二 三塁。打者のバットにミットが触れたが打球はレフト前ヒットになり、三塁走者はホームインしたが二塁走者は打撃妨害に気付いて進塁しなかった。この場合 1点入って1死一・二塁とするか、打撃妨害をとって1死満塁とするかを監督が選択することができる。

61

<四球の定義>

1死走者二塁でカウント3ボール。次の投球はきわどいコースでボールの判定だったが、捕手がパスボールをしたため二塁走者は三塁をまわって一気にホームインし、打者も二塁に達した。審判員はボールデットなので走者を戻し1死一・二塁で再開した。

62

<三振の定義>

3ストライクをとられた打者は必ずアウトになる。

63

<外野手の守備位置>

レフトは投手の投球前にあらかじめ二塁と三塁を結ぶ線より前に守っていてもよい。